

氏名	時田 みどり TOKITA Midori
所属 職名 学位 専門分野	大学院人間文化創成科学研究科 リサーチフェロー
URL	
E-mail	tokita.midori@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

数の表象
心理物理学

number representation
Psychophysics

主要業績

Midori Tokita, Akira Ishiguchi, How might the discrepancy in the effects of perceptual variables on numerosity judgment be reconciled? Attention, Perception, & Psychophysics, 72(7), p1839-1853, 2010, Psychonomic Society. 原著, 査読あり, 第一著者, 学術雑誌

Midori Tokita, Akira Ishiguchi, Effects of element features on discrimination of relative numerosity: comparison of search symmetry and asymmetry pairs. Psychological Research, 74, p99-109, 2010, Springer Berlin. 原著, 査読あり, 第一著者, 学術雑誌

How people judge the relative frequency of sequential events: Behavioral evidence, Accumulator model, and Bayesian inference, 認知感性科学年報, vol.6 p11-23, 2010, Midori Tokita, Akira Ishiguchi, 共著

研究内容 / Research Pursuits

離散量表象の認知過程について、学位論文の内容を発展させ、主に以下の3つの実験研究を行った。1つ目に、離散量表象の発達過程の検討を目的とし、5歳児及び成人を対象としたドット数の識別における知覚的連続量の効果の検討を行った。結果を発達心理学会で発表予定である。2つ目に、離散量識別の学習効果が、提示フォーマット間及びに感覚モダリティ間で転移するか否かの検討を行った。結果を、日本心理学会大会で発表した。3つ目に、逐次例示された刺激の頻度識別における刺激特性の効果及びに刺激数の効果を検討した。結果を国際学会で発表した。以下に各研究の概要を示す。

Substantial empirical evidence has supported the idea that humans possess innate neural mechanisms that generate approximate, not precise numerical representation. A genuinely abstract number representation has been argued to be capable of representing t

■ 教育内容 / Educational Pursuits

■ 研究計画

今年度の研究では、学位論文の研究を踏まえ、発達研究、フォーマットの独立性、感覚モダリティの効果を検討した。また、応用課題として、頻度識別における刺激特性の効果を検討した。次年度は、これをさらに発展させ、得られた離散量抽出の特性が、どのような処理システムに依存しているのか、行動実験に加えてモデリングとシミュレーションによりシステムの構造及びメカニズムを検討する。さらに、幼児・児童を対象とした検討をつつ、初期の算数学習と離散量識別課題今年度の研究では、学位論文の研究を踏まえ、発達研究、フォーマットの独立性、感覚モダリティの効果を検討した。また、応用課題として、頻度識別における刺激特性の効果を検討した。次年度は、これをさらに発展させ、得られた離散量抽出の特性が、どのような処理システムに依存しているのか、行動実験に加えてモデリングとシミュレーションによりシステムの構造及びメカニズムを検討する。さらに、幼児・児童を対象とした検討をつつ、初期の算数学習と離散量識別課題との関連を検討する。

■ メッセージ